

Tudo bem? フラジルより

学校教育課 島内三都子

★またまたクリチバから。ここでの活動は、前半の部がほぼ終わり、来週末には、ランドリーナに向けて移動します。うまく言葉が通じなくとも、思いは心で通じることを実感しています。そして、力を貸してくれる人がいてこそです。仕事の域を越えた心配りが身にしみる毎日。「Obrigada!!!」今私は、体験から学ぶことの大切さを改めて確かめているところです。今週は、“日本の夏”！長袖3枚はいつのこと？Tシャツ+短パンでも倒れそうな連日 30℃越えでした。

『いろいろな学校』を訪問しています[1]

まずは、**ブラジルの学校事情**の話から。

- ・義務教育は4才~17才で、5年生までは市立、6年生以降は州立の学校。他にも私立や軍の学校、警察の学校がある。驚いたのは、例えば 40 才でも、義務教育を終えてない人がいると聞かされたこと。ん？どういうこと？つまりは、法律で決められているものの、「義務」とは名ばかり。罰せられることはないので、極端な話一生未就学でもそれで済んで行ってしまうのだとか…。ひょえ〜〜!!!! だからなのか、『青年成人教育課』っていう課がある訳は…。

- ・授業は午前、午後の二部制が基本。建物が不足しているため。全日制もあるが、午前は授業 午後は課外授業というメニューで1日を過ごしている。

- ・圧倒的に女性教員が多い。これまで訪問した学校で、男性の校長先生だったのは警察の学校だけ。ちなみに校長先生は、コミュニティの選挙によって選ばれるそうで、22才から10年間校長をやっていたというクリチバ市教育事務所の所長(もちろん女性)もいた。うっそ〜〜!!!! 22才で校長?? これも驚き。

- ・あちこちの学校を掛け持ちしている先生も少なくない。教材研究の時間が週に14時間程度与えられているにもかかわらず、食べるか寝るかでその時間を費やす。研修はポイント制で、ポイントを貯めたらごほうびのお金がもらえるという制度によって、ようやく研修に出向くんだそう。まさに苦肉の策。教員の話になると、「子どもが授業に集中できるはずがなく、力がつくわけがない」と、聞く人聞く人 厳しいことを口にする。ちなみに、ブラジルの算数数学レベルは最低で、国の教育における最大の課題なのだとか。そんな子どもを相手に、再びここクリチバに戻る 11月には、6年生を相手に算数の授業にチャレンジする。通訳を介しての授業はいかに？



【中央がそのビビアン所長】

◆警察の学校 【Colegio de Policia Militar】

- | | |
|--------------|-------------------|
| * 州立の学校で1校のみ | * 6年生から高校まで |
| * 授業料はかからない | * 入試がある →例年 12倍程度 |



さすがに選抜されてきているだけあって、子どもは授業に集中していた。7年生の算数『等しい分数』の授業と思われる。放課がなく、トイレに行く時間がないため、授業中に先生に申し出て、帽子をかぶって外に出る。水を飲むのは自由気まま、飴をなめる子もいて、それも有り？これはナゾ。

放課が終わる時には、行進をしながら校舎に入る。学校のきまりは厳しく、しかし、親はあえてここを

選んであるため、苦情を言うてくることはないとのこと。そうでなくちゃあ！

